

# フィールドワークを通して問題発見力，解決力を育む

多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校 教諭

なす としや  
那須 俊也

## はじめに

本校は大学附属の中高一貫校である。教育方針に「本物から本質に迫る」「異文化交流でグローバルな精神，態度を育成」を掲げている。社会科としても学習指導要領にある「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家，社会の形成者に必要な公民としての資質，能力の基礎を育成」を踏まえて「世の中のできごとを正しく理解する力」「健全なる批判力」「本質を見極める見方・考え方」を身につけることに注力し，フィールドワークやグループワークを積極的に取り入れている。その例として，中学1年生から高校1年生へと続く，本校のフィールドワークについて報告する。

## 1. 中学1年生での取り組み

中学1年生では，日帰りの社会科見学を年6回開催し，生徒はこのうち希望するものを2か所選び，参加することになっている。見学地は横浜，鎌倉，小田原，三浦半島，東京下町，日本銀行の6か所である。本校は一学年120名であるため，一回あたり約40名が参加することになる。生徒たちには往復の交通手段を調べさせ，すべての社会科見学において現地集合現地解散であることが特色の一つである。

さて，この社会科見学の内容であるが，中学1年生では体験学習的なものを中心となる。例えば，小田原ではかまぼこづくり，横浜では中華街で餃子・肉まんづくりなど



↑ 小田原でのかまぼこづくり

を楽しみながら体験するとともに、教科で作成した社会科見学ノート、ワークシートに沿って現地で調べまとめていく。おもに調査の方法について学習し、フィールドワークの基礎を身につけさせ、2年生で取り組む「身近な地域の調査」にも結び付くよう心掛けている。

例えば小田原の場合、旧東海道の一里塚、小田原城 <sup>あかがね</sup>銅門や馬出門などまとまって移動しながら教員の説明を聞くという場面もあるが、基本的にはワークシートの課題に沿って、各自で調べることが中心である。課題に対してどのような調べ方をすれば答えを導き出せるのかなど、基礎的な技能を身につけてもらうことを目的にしている。



↑ 旧東海道を歩く



↑ ワークシートの正解を探す

## 2. 中学2年生からの取り組み

中学2年生からは学年の枠を外し、中学2年生から高校1年生までの希望者を対象に、7月下旬に2泊3日のフィールドワークを実施している。学年の枠を外す理由は、上級生が今まで学んできたフィールドワークの技能を下級生に教えてもらいたいとの考えからである。そのような点からも、調査地域は生徒が翌年以降も、再度参加できるように毎年変更している。過去には金沢市、佐渡島、琵琶湖、伊勢・志摩などで実施している。

2018年度は、従来のフィールドワークではフィールドワークの手法習得が中心だったのに対し、さらに地域との協力を得てフィールドワークの手法習得のほかに地域理解を目的に加えて福島県会津若松市で実施した。5月に募集し、7月末に実施したが、生徒にはその間に5回の事前学習を行い、現地調査に向けて会津若松市に関するクイズや文献の読み合わせ、聞き取り調査の練習やアンケート項目の検討・作成などを行った。また、教員は市役所や商店街協議会などと打ち合わせを進めた。

3日間の会津若松市の訪問では、地元の商工会議所の方や会津大学の大学院生にも協力をお願いし、「商店街からの地方都市の街づくりと魅力発信」をテーマに調査を行った。

今回の集合・解散はJR郡山駅とした。1日目は郡山から会津若松に向かいながら、地域理解を深める一貫として会津若松市に因む野口英世生家や飯盛山、鶴ヶ城を中心に白虎隊ゆかりの地を訪問した。夜のミーティングでは2日目に行く店舗訪問と聞き取り調査に備え、適度に緊張感を高め、マナーを磨くため教員が店主役となりリハーサルを行った。

2日目は店舗の開店時間前に七日町通りまちなみ協議会副会長に「七日町通りのビフォーアフター」というテーマで生徒へ向けて過去と現在の写真を使って講話していただいた。その中で私たちが注目したのは「七日町通商店街」の活性化と地元の努力であった。歴史的な建造物を生かした町並みで地元の人だけではなく観光客も集めている商店街であるが、20年ぐらい前までは、人口減少やロードサイド型店舗の増加により、いわゆるシャッター商店街だったと説明してくれた。講話の後、商店街を案内していただき、講話の内容をより深く理解することができた。

午後には会津大学の大学院生とともに、七日町通り商店街以外の商店街も含めた5か所に分かれ、班ごとにアンケートや聞き取りによる商店街の調査を行った。このような中学生による調査を行うことを、事前に市役所から各商店街に伝えていただいたこともあり、各商店街、店舗から協力を得ることができて感謝している。

3日目は「商店街からの地方都市の街づくりと魅力発信」について、前日の調査結果をまとめ、班ごとに発表させた。各班の発表を聞き、自分たちの班の足りないところを補うため、短い時間ではあるがもう一度各商店街に調査に向かった。

現地調査そのものは3日間で終了して現地解散、翌日は学校に戻り、各自が聞き取りやアンケートを実施した店舗について、統一した書式・項目に記入するかたちで報告書作成に取り組んだ。



↑ 七日町通り商店街を歩く

中学2年生から高校1年生までの参加ということで、学年による技量の差はあったが、上級生がリーダーシップを発揮してくれた。この成果は多くの来校者が訪れた文化祭で発表した。会津若松市の魅力発信という目的が達成できたのではないかと思われる。

見守り英世青春通り

商店街

店舗名

加藤陶器店

調査日：2018年7月24日

記録者： [ 3年 ]

- (1) 取り扱っている主な商品： 陶器
- (2) 創業年(西暦)： 昭和6年 (91年前頃)  
現在の店主でおよそ何代目(2代目)
- (3) 現在までの店の参み： 昭和6年に創業され今まで続いてきたお店。陶器の有名な成早泉の御治見にとられ、売り上げが減っているという。東日本大震災で大切な陶器がたくさん客りれる被害がありました。そのため、損害は大きかったが、夫婦で支え合い、今に至っている。
- (4) 魅力ある店、商店街活性化のための工夫と努力： お店のお父さんとお母さんは優しく魅力的な方でした。茶カヒ、かぼ、はくろなどの、日本らしい動物のかわいらしい陶器が売られていました。
- (5) 商売をやって良かった点、苦しかった点  
ステキな東さんに出会えたのが一番嬉しい。  
大震災で陶器が客りれるという被害を受けたが、建屋物には、あまり被害が無かったので保険がなくなり苦しかった。
- (6) 店の魅力、一押しポイント： 動物のおまもの、おまものは是非見てほしい(魅力発信のポイント、ここがウリ!) と思います。
- (7) 今回の調査を通じて学んだこと、改めて知ったこと等： 7つのお店にインタビューしてきて、お店の方は優しく、話していて温かいなと感じました。東日本大震災の被害は、原形のがばり目を向けられているが、会津若松にも影響があったと驚きました。SNSで海外にも発信していたらお茶さんは増えると思います。  
『戊辰150周年』会津若松の商店街の魅力発信



↑ 生徒の個人レポート

2018年度

見学地	テーマ	中学			高校	
		1年	2年	3年	1年	2年
江戸東京博物館と下町	江戸・東京の形成と変容					
横浜開港資料館と中華街	港町横浜の歴史と文化					
日本銀行・貨幣博物館と本郷周辺	お金を通してみる日本					
古都・鎌倉	鎌倉の町づくりと武家の歴史					
城下町・小田原	小田原の自然と歴史					
山梨県の扇状地帯	勝沼・甲府盆地の自然と歴史					
会津若松	商店街からの地方都市の街づくりと魅力発信					
カンボジア(プノンベン・シェムリアップ)	国際貢献 ~誰かのために役立つことを考える~					

参加対象学年

↑ 2018年度の見学地リスト

### 3. 高校生の取り組み

高校1年生では、それまでの一連のフィールドワークの経験を活かし、その集大成として1年間の準備期間を経てカンボジアを訪問する。4月に生徒および保護者向けの説明会を開催するのであるが、これは旅行者からの説明ではなく教員からの説明である。この説明会を教員が行い、ツアーの行程だけでなくカンボジアの歴史や現状、ツアーの目的を伝えることとした。この説明会を通じて、カンボジアツアーの趣旨を理解してもらえたのではないかと考えている。このツアーは希望者を募って実施するものであるが、一学年120名に対し、2018年度は28名、2019年度は31名と多くの生徒が応募し、現在2020年3月の現地訪問に向けて準備を進めているところである。学校行事や定期考査があるため不定期ではあるが、ひと月に1回程度のミーティングを行う。本校では、一学期が終わった7月下旬に「A知探Qの夏」という講座を各教員が開き、普段の授業では習うことがない教科書から離れた学習に取り組んでいる。因みに会津若松でのフィールドワークもその一つである。生徒の参加理由はさまざまで、「ボランティアに興味がある。」「将来、外国で働いてみたい。」というテーマに沿った理由がある一方、「アンコールワットを見てみたい。」「外国に行ってみよう。」「という理由で参加を決めた生徒もいる。理由はともあれ、共通していたことは、ツアーに対する期待の高さであった。

このカンボジアツアーでは、「国際貢献～誰かのために役立つことを考える～」をテーマにしている。カンボジアの歴史や現状を学び、カンボジアを訪問した際にはどのようなことができるのかを考え、実際に自分たちで行動してみよう、というものである。私はこの「A知探Qの夏」でカンボジアスタディーツアーに参加する生徒に向けてツアーのテーマでもある「国際貢献～誰かのために役立つことを考える～」という講座を開いた。申し込んだ時点でのカンボジアに関する生徒の知識は「アンコールワットの国」「内戦や地雷」程度であった。そこで、実際にカンボジアに関わる方々に協力を仰いだ。この講座では、東南アジアで教育支援をしている団体、寄付を集め夏季休業を利用してカンボジアの小学校を訪問している学生ボランティアサークル、日本に留学しているカンボジア人留学生を招き、活動内容とともに活動のきっかけややりがいなどについて伺った。また、カンボジア人留学生には簡単なカンボジア語を習ったり、日本とカンボジアの違いなどを話してもらったりした。これらの話は生徒たちにとって自分たちはどのようなことができるのだろうかと考え始めるきっかけになっただけでなく、参加する目的をはっきりさせ、自分たちがこれからしようとしていることの意義をより深く考え、ツアーに対する意識を高めることになった。このツアーの成功の裏には、こうした参加する生徒の意識の高まりがあったといえるのではないかと。

「A知探Qの夏」の講座を通じ、カンボジアではさまざまな事情で学校に行くことができない子どもが多いということを知った生徒たちは、9月に行われる文化祭

で文房具の寄付を募り、小学校や孤児院での交流会で子どもたちへのお土産にすることを決めた。また、交流会ではどのようにして子どもたちを楽しませようかなど、3月まで準備を続けた。3月には、少しでも子どもたちとコミュニケーションが取れるよう再度留学生を招き、カンボジア語を習った。カンボジア人留学生にとっても、日本の高校生がカンボジアについて勉強してくれるということが大変うれしいようで、快く応じてくれている。

先述したとおり、申し込んだ理由はさまざまであったが実際に現地で体験することによって、本物に触れることができた。帰国後にアンケートを実施したが、最も印象に残ったものを三つ挙げさせると、トゥールスレン博物館、キリングフィールドという虐殺に関する場所と孤児院を挙げる生徒が多かった。もちろんアンコールワットを挙げる生徒も多かったが、強く印象に残ったのは“負の遺産”とされるもののほうだった。特にトゥールスレン博物館ではイヤホンガイドを耳にしながら丁寧に回ったため、全体の半分程度しか見学できない生徒が出てしまい、生徒の熱心さに感心するとともに次回は滞在時間を増やさなければと反省した。また、「再訪したい場所はどこですか？」という質問ではほとんどの生徒が孤児院と小学校を挙げた。「もう少しカンボジア語を覚えていけば良かった」との感想もあり、事前準備に最も時間をかけただけに強く印象に残ったのだろう。この質問の3位にはマーケットが入っているのだが、理由は値段交渉など地元の人との交流が楽しかったからであろう。遺跡や博物館の見学も印象に残るが、なによりも現地の人と交流することが良い経験となっていたようである。



↑ 小学校であやとりをする



↑ 孤児院で伝統工芸を習う



↑ キリングフィールドを見学



↑ 留学生にカンボジア語を習う

#### 4. まとめ

中学1年生より通学経路を中心とした日常生活圏を離れた、フィールドワークを重ねてきた。「事実を自分の目で確認する」ことや、「現地を訪れて初めて知る」ことなどは教室での授業では得難い大変貴重な経験になる。さらに課題を解決するためにさまざまな角度から考えられるようになったことはフィールドワークの大きな成果であると感じている。

カンボジアツアーでは「国際貢献」という大げさなテーマを掲げているが、すぐに答えが出るものではないし、たった1回のカンボジアツアーで完結するわけではない。このカンボジアツアーをきっかけにサブテーマである「誰かのために役立つことを考える」を実践し、未知の世界へ挑戦する行動力を養い、将来大学生、社会人となったときに誰かのために役に立つ人となってほしいと考えている。

2018年度 カンボジアスタディーツアー行程表

多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校

日次	月	日	曜	地 名	現地時間	交通機関	スケジュール
1		25	月	成田空港 東京(成田)発 ホーチミン着 ホーチミン発 プノンペン着 プノンペン	7:30 9:30 14:20 15:45 16:40 17:40	各自 VN301便 VN920便	第一ターミナル北ウイングGカウンター集合 空路ホーチミンへ 乗り継ぎ  スーパーで飲料水購入後ホテルへ レストランで夕食  (プノンペン泊)
2		26	火	プノンペン  プノンペン発 シェムリアップ着	午前中  16:00 16:50	バス  K6 7111便	【プノンペン市内研修】 ・キリングフィールド(平和学習) ・トゥールスレン博物館(平和学習) ・王宮・シルバーパゴダ レストランで昼食 空路シェムリアップへ スーパーで飲料水購入後ホテルへ アプサラダンスを鑑賞しながらの夕食  (シェムリアップ泊)
3	3	27	水	シェムリアップ	8:30 10:30  14:00 16:00 17:00	バス	・リトルエンジェル孤児院訪問(スバエク作りで交流) ・カンボジア料理体験(昼食を兼ねる) ホテルへ戻り 小休憩 ・バンテアイスレイ小学校訪問(準備した遊びで交流) ・戦争博物館(平和学習) ・オールドマーケット散策(地元の人との交流)  (シェムリアップ泊)
4		28	木	シェムリアップ	午前  午後	バス	【アンコールトム遺跡修復現場見学】 ・バイヨンインフォメーションセンター(遺跡修復のガイダンス) ・アンコールトム遺跡修復現場、バイヨン寺院 (日本政府遺跡修復チームJASAIによる解説) ・タ・プローム(遺跡見学) 昼食、ホテルへ戻り小休憩 ・アンコールワット  (シェムリアップ泊)
5		29	金	シェムリアップ  シェムリアップ発 ハノイ着	8:30 11:00  20:30 22:15	バス  VN834便	・スナーダイクマエ孤児院訪問(準備した遊びで交流) ・トンレサップ湖(湖上集落見学) 昼食 ・ベンメリア(遺跡見学) 夕食 空路ハノイへ 乗り継ぎ
6		30	土	ハノイ発 東京(成田)着	0:25 7:00	VN310便	空路成田へ 解散

↑ 2018年度のカンボジアツアーの行程表